

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぶるーべりー池田		公表日		R8年 5月 7日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		午前午後と2部編成し余裕を持たせている	部屋数は少ないので使用用途の検討は必要	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		施設規模にしても適切に配置していると思う	2部編成で余裕は持てているので支援に注力する	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		現状問題点は見受けられない	現状は問題ないが使っていく中で問題を見つけていく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃・衛生面は意識は高いと思う	衛生保持は習慣化しているので、下がることなく継続していく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	可能ではあるが部屋数は少ない	静養等の目的は変わらずであり、大きな部屋を工夫して使う	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎月法人全体のミーティングを行っている	計画・評価等特定の者にならないようにローテーションしていき、全体での認識を高める	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		作成時に情報を共有する	分散すると進捗が良いとは言い難いので、一つずつ改善を図る	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	全体・事業所での話し合いを設けている	上記同様、優先順位をつけひとつずつ改善していく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	第三者による外部評価を行っていない	状況を見て検討していく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		月例ミーティングなどで行い、受講者による振り返り等全体に広がる形を増やす	外部研修やオンライン研修を行っていき、質の向上を図っていく	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	作成時に職員間で話し合い試行を重ねていく	他を参考にしたりと適宜改善していく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		ニーズや課題を確認し、他機関との連携なども行い検討し、作成している	違いが見せられる、感じられるような内容や計画を考えていく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		本人の状況・保護者のニーズに合わせて項目は設定している	保護者・児童の意向をバランスよく取り入れていく	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画内容にあった支援をスタッフで共有し支援している	他事業所を参考にし、向上を図っていく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		法人全体で共通した様式の使用 事業所間でも理解しやすい形を作る	使用感を随時話し合い改善を図る	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	形式的な運びになっているが内容は変えていけるよう継続ではなく変化をつけるようにしている	5領域に沿った支援を他事業所と意見交換等行い向上を図っていく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別・集団とスタッフ全員で立案し、他事業所の活動も参考にしている	プログラム内容等確認できるシステムを使い、活用していく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		皆で考えることでバリエーションを増やしている	プログラム内容等確認できるシステムを使い、活用していく	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		各々に合わせた形を考え個別・集団活動を検討している	本児の特性に合わせて作成していく	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	前日・開始前にミーティングを行い確認している	流れ作業にならないように努めていく	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		アプリを活用し、情報の掲示を行い共有できるようにしている	タブレット端末で利用できるシステムを活用しており、気付きや意見も共有出来てきている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		アプリを活用し、情報の掲示を行い共有できるようにしている	タブレット端末で利用できるシステムを活用しており、気付きや意見も共有出来てきている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		モニタリング期間を設け実施、見直しを行っている	見直しに関しては状況に応じてモニタリング期間よりも短い期間で見直し向上を図っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が参画している	全てというわけではないが、参画できる職員は参画している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	整えているが受動的になっている	利用児や関係機関に偏りがあるので広がりを作っていく	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	大半の利用児が併行利用であり、情報共有は行えているが移行に関しては就学時のみと乏しいのが現状	大半が利用段階から併用しており情報共有等は機会も多いが移行は乏しい 移行の機会を作っていく必要がある	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		学校・利用事業所と連携を図っている	卒園後は必要な事なので保護者への意識や理解も進めている	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		7		非常に乏しい	必要な助言等検討し、機会を設けていく
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		職員の子供との交流のみである	通園・通所の関りであり交流の機会までは得られていないので検討していく	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			送迎時などに保護者と情報交換を行い相互理解を図っている	園送りなどで伝えられない際はSNSを活用し、漏れなく伝えられるようにしている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		バリエーションは乏しく外部等参考にスキル向上を図る	他事業所等参考に行えることを増やしていく	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			聞いて分かりやすい心がけている	知らないことを教える・伝える意識で臨む	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			面談・送迎時など直接会う形で意向を確認している	時間の制限もあるのでSNSなどで意向を確認できる様意見交換しやすいうように努める	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			聞いて分かりやすい心がけている	聞き返されるような単語を多用しないように心がけている	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			送迎時・面談・電話対応等を行っている	時間の制限もあるのでSNSなどで意向を確認できる様意見交換しやすいうように努める	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7	保護者をメインに置いた会合は行っていない	事業所でのイベントへの参加のみであり、保護者をメインに添えた会合は行っていない
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情体制を作っており、発生時は苦情解決責任者が対応に当たる	機会は取りにくいですが、シミュレーションしたりと向上を考える
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		活動・イベント情報を書面、SNSなどで伝えている	広報などはないが現状周知は出来ている 発信の形は検討していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		情報の取り扱いには厳重に注意し管理している	定期的に意識が持てるよう研修などで職員の意識をより強めていく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		SNSなどを活用している	伝達不足は無いと思われるが、今後も適宜に扱えるものを考えていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	行ったことはない	第三者を交えることに抵抗や同意が得難い
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		それぞれのマニュアルを作成しており、職員・保護者に周知している	訓練がパターン化しないように仮想状況を増やしていく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		定期的に避難訓練を行っている	他事業所と意見交換を行い対応力等訓練内容の向上を図る
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		見学・契約時に確認を行っている	フェイスシート等に記載欄があり極力情報漏れがないようにしている
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		保護者に確認を取り対応している	食品を扱う場所（台所等）に掲示しておき情報抜けのないようにしている
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	計画に沿っているだけの現状	研修等機会を増やしていき、安全計画への理解を深めていく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	周知の意識は乏しい、適宜伝えていく意識を持つ	研修等機会を増やしていき、安全計画への理解を深めていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		報告書を作成しており掲示・回覧し職員に周知し共有・再発防止を心掛けている	話し合いの場を設け再発防止に努めていく
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		職員研修を行い、虐待の捉え方や理解を図っている	防止策や該当事由を増やしていき、対応力や虐待への理解を上げていく	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		研修等で話し合い必要な状況等考え、保護者に説明し同意を得ている	該当事由を考えていき、対応力や身体拘束への理解を上げていく	